

鞆の浦における風景を活かしたまちづくりの実現へ向けて  
その3 読解から提案へ

キーワード：鞆、まちづくりビジョン、交通改善、  
場所性、観光

正会員 ○阿部大輔\* 川西崇行\*\*\*  
窪田亜矢\*\* 田中大朗\*  
安藤真理\* 中島直人\*\*\*  
池田晃一\* 宮本裕太\*  
今村洋一\*\*\*

1. はじめに

先稿では、歴史的港町鞆ならではの空間を読解し、7つの地区の特徴と課題、17のテーマを抽出した。そこで本稿では、その読解をもとに将来の鞆のまちづくりへ向けたビジョンを提案する。まちづくりビジョンとは、地区を詳細に歩いた結果理解することができた鞆という港町の個性、すなわち連続と続いてきた暮らしと町の間にある細やかな関係を最大限生かしていく提案である。

2. まちづくりの課題・テーマ

鞆の将来へ向けて、平成8年策定の「鞆地区まちづくりマスタープラン」では、①道路網形成、②土地の創出・利用の誘導が大きな課題・テーマとして指摘されている。

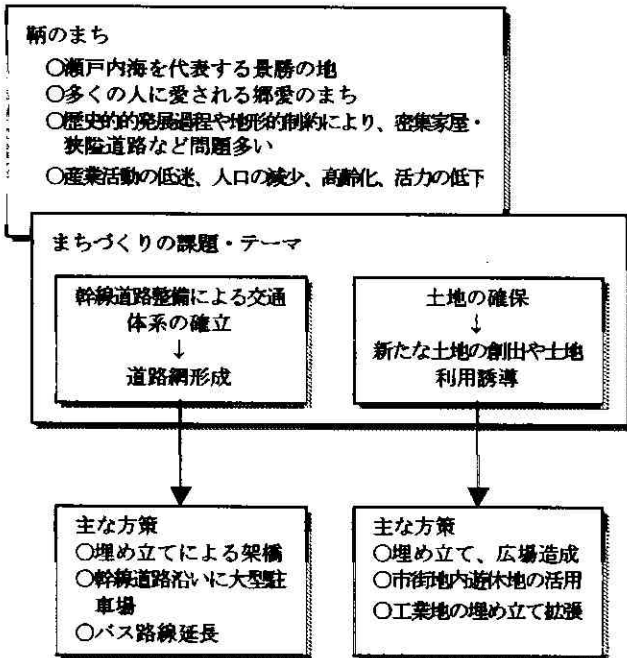


図-1 「鞆地区マスタープラン」の考え方

この2つは空間読解の結果、依然として鞆を取り巻く大きな課題であると認識することができた。しかし我々は「マスタープラン」における課題解決へ向けた方策に関しては、考えを異にする。そこで「マスタープラン」を発展させる形で以下の3つをこれからの鞆におけるまちづくりの課題・テーマであると整理した。

表-1 鞆のまちづくりビジョン

	地区内の交通改善	場所性の守り育て	観光
課題	まちなかの狭隘道路の存在による朝夕の交通渋滞、車のすれ違いの困難	産業の活性化・居住環境の改善・人口定着へ向けた努力の欠如	消費型観光施設に頼りがちな観光スタイル、地元と観光客の交流があまりない
解決へ向けた考え方	道路網の形成へ向けた第一の手法は道路の新設ではなくいままで作り上げてきた道路・通り・小路を、それぞれの性格を活かしながら改善していくことである。	課題は土地の不足ではなく、場所の軽視である。眺望点や海際、通り、まちかど、小路、井戸周り、人を迎える場所など、暮らしの中に息づく魅力的な場所を重視する。土地ばかり作っても生きている場所とならなければ鞆の活性化はあり得ない。	鞆に来る観光客が求めているのは消費型観光ではなく、まちなかに潜む何気ない魅力であり、魅力の発見であり、地元の人間との交流である。観光客との交流は、自らの町を魅力あるものにしていく新しい作法である。
提案	架橋による道路新設による交通改善策ではなく、まちなか道路の小さな改善の積み重ねによる大きなネットワークづくり	埋め立てによる土地の新たな創出ではなく、個々の場所の魅力の再発見、尊重、構築	大型ホテルや大型駐車場の建設ではなく、鞆の生活に根付いた宿の開設や観光客との交流の工夫

3. 地区内の交通改善

鞆の交通問題は、広域的な視点と地区内交通の視点の2つの

Towards sustainable MACHIZUKURI on the basis of its environment in Tomo  
Part3: Formulate the directives

ABE Daisuke et al

側面から考えていく必要がある。輛のまちなかには車がすれ違いうのにも苦勞する幅員の道路も少なからず存在するが、その幅員の狭さと曲がり角の存在により車のスピードが抑えられると同時にその通りに並行して歩行者のみが安心して歩ける裏路地が通っているなど利点も多くある。今度は狹隘箇所を中心に、部分的な改善（街並み環境整備事業の適用など）を図っていくことが考えられる。

また、不要交通削減のために公共サービスの改善も必要である。輛地区内（平〜鉄鋼団地）を巡回するコミュニティ・バスの設置は問題解決へ向けたひとつの方法である。

#### 4. 場所性の守り育て

空間の読解により、以下の5種類の場所性を確認することができた。

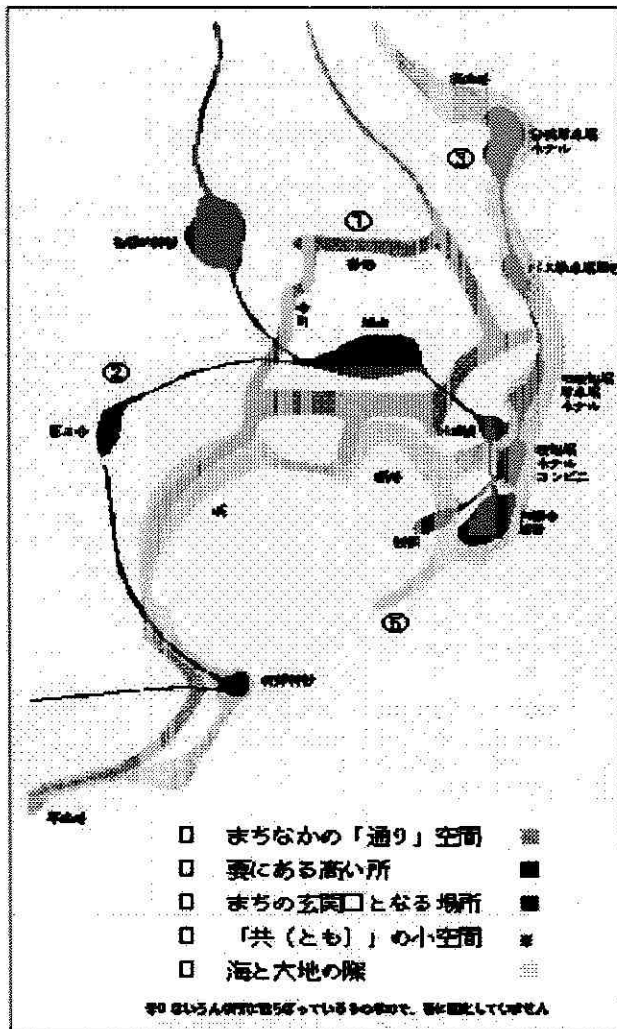


図-2 五種類の場所性

\* 東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻 修士過程  
\*\* 東京大学大学院工学系研究科 助手  
\*\*\* 東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻 博士過程

Graduate School, Dept. of Urban Engineering, Faculty of Engineering Univ. of Tokyo  
Associate Prof., Dept. of Urban Engineering, Faculty of Engineering Univ. of Tokyo  
Graduate School, Dept. of Urban Engineering, Faculty of Engineering Univ. of Tokyo

#### ① まちなかの「通り」の再生

輛の暮らしの顔となるまちなかの「通り」であるが、現在では駐車場や空家の存在などによって町並みが乱れてきていると同時に「通り」空間としての魅力が薄れてきている。空家の活用、駐車場の修景、沿道環境のコントロールなどが提案として挙げられよう。

#### ② 要となる高い場所の尊重

輛の場所性を決定付ける重要な要素になっていると同時に、輛の人々の精神のよりどころでもある医王寺や城山、対潮楼などからの眺望を確保する必要がある。

#### ③ 玄関口となる場所の育成

バス・ターミナル周辺の改良、旅の風情を感じさせる市営渡船場ならびに旧渡船場跡の活用、その二つをつなぐ海沿いの歩道整備が必要である。

#### ④ 「共(とも)」の空間の保全・創出

輛のまちなか空間の特徴である路地や社の周りでの自然発生的集い空間を守り、創っていく。

#### ⑤ 海際の活用

雁木などの歴史資産としての港湾施設の保全、近代化以降に埋め立てられた海際空間への新しい場所性の付与、防波堤により分断された人と海の関係の改善が重要となつてこよう。

#### 5. 観光

観光に関しては、輛への来訪者と輛に住む人々の二側面から交流の在り方を探っていく必要がある。その作法として以下の3つを提案する。

##### ① まちなかの空家の貸し出し

まちなかに点在する空家の有効利用を図る。宿泊施設の少ない輛において空家を簡易な旅館・民宿として再生する。

##### ② 来訪者に対するまちなかスペースの提供

##### ③ 住民と来訪者共同のワークショップの開催

#### 6. まとめ

空間読解と現存のマスタープランの分析により、輛が解決すべき課題として「交通改善」「場所性の守り育て」「観光」の3つがあると理解された。その理解のもと、輛の将来のまちづくりへ向けた提案を行った。本稿で述べた提案を、今後は住民の方々と交えて実現可能な手法として実現していくことが何よりも重要であると考えられる。